

2022年7月20日
サポーター養成講座

「ジオパーク」って何？

今日のはなし

- ・「ジオパーク」とは何か
- ・「十勝岳ジオパーク」の概要
- ・ジオパークのメリット・デメリット
- ・自分とジオの関係は？

十勝岳ジオパーク推進協議会
専門員・中村有吾

「ジオサポーター」 と「ジオガイド」

ジオサポーター

十勝岳ジオパークの自然、歴史、文化等を愛し、その知識を深める
ジオパークの活動に賛同し、サポートする



ジオガイド

十勝岳ジオパークを代表する
十勝岳ジオパークのテーマ、概要を説明できる
接遇、危機管理、自然保護についての知識がある



ジオサポーター、ガイド養成講座

受講：

必修：すべて

選択：5科目以上

→「ジオサポーター」認定



受講：

ガイド養成講座・必須：すべて
筆記試験＋面接試験

→「ジオガイド」認定

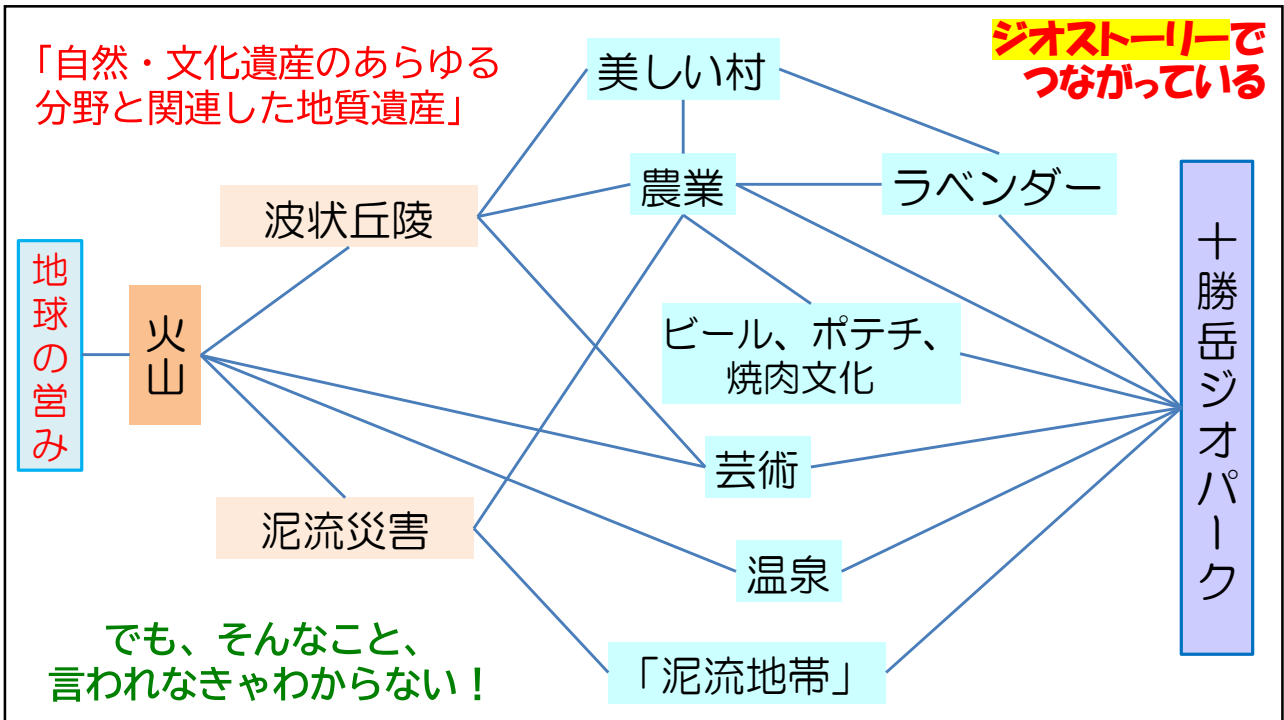
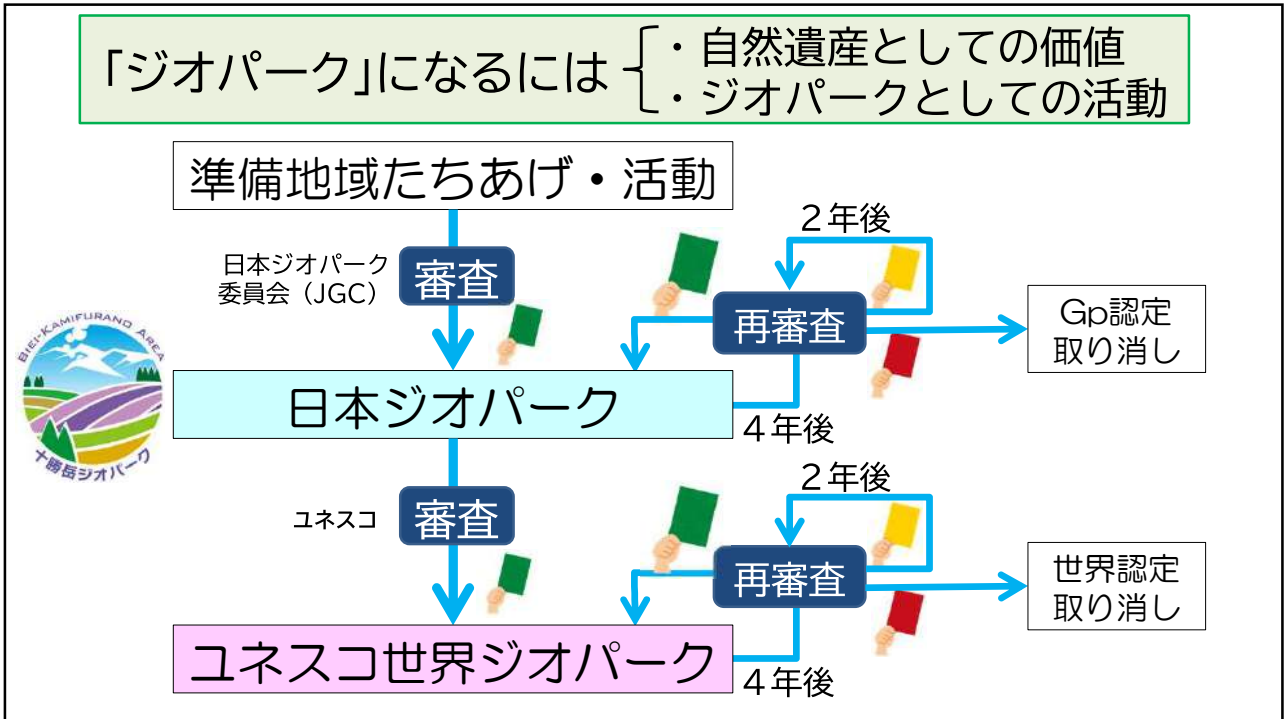


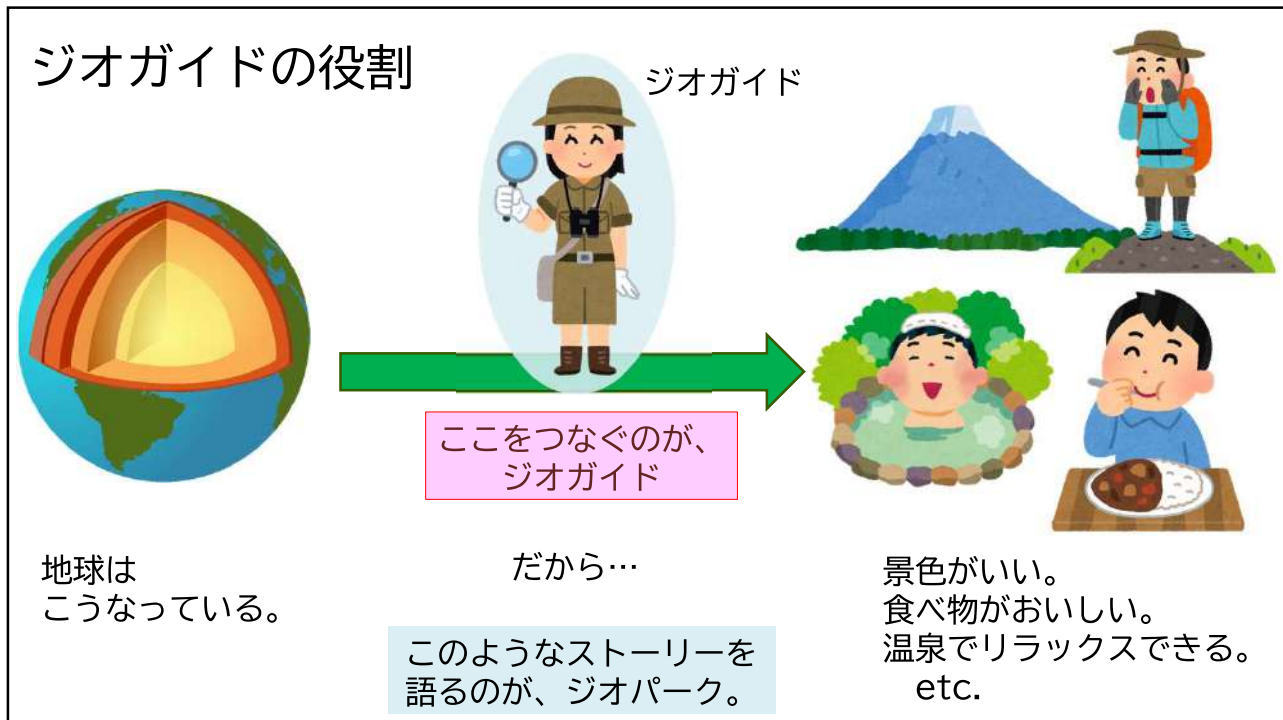
2022年度十勝岳ジオパークサポーター、ガイド養成講座

	種別	日時	曜日	時間	テーマ	内容	講師	開催場所		オンライン	
								形態	会場	美瑛会場	上富良野会場
サポーター養成講座	必修	7月20日	木	19:00	①ジオパークとは	・ガイド養成講座の基本的な説明 ・十勝岳ジオパークについて ・ジオサポーターとは？	専門員 中村有吾	座学	美瑛町会場をメイン会場 上富良野町と個人をオンライン配信	3F第2会議室	消防庁舎2F 大会議室
	選択	8月7日	土	13:30	①山と水と気候	・火山・水に関する説明 ・フィールドワーク(望岳台など)	教育大旭川校 佐藤統一氏	座学 現地	大雪青少年交流の家 望岳台	—	—
	選択	8月20日	土	13:00	②地形と地質	・地質・地形に関する説明、丘に関する説明(エリアの成り立ちと地形の特徴)	北海道立総合研究機構 廣瀬 亘氏	座学 現地	上富良野町公民館 日の出公園	—	—
	選択	9月28日	水	18:30	③文化と歴史	・大正噴火・泥流災害と復興	上富良野町郷土をさぐる会	座学	上富良野町役場(メイン) 美瑛町役場(オンライン)	3F第1会議室	3F第2会議室
	選択	10月1日	土	9:00	④生態系	・動植物に関する説明	丘のまぢいDMD オフィス小倉博昭氏	現地	美瑛町白金 小松原原生林	—	—
	選択	9月28日	水	16:00	⑤気象・気候	・気象・気候に関する説明 ・火山の状況、防災関連	旭川地方気象台 火山防災官	座学	オンライン	3F第1会議室	3F第2会議室
	選択	11月15日	火	19:00	⑥地域資源を生かしたまちづくり	・十勝岳ジオパーク構想エリア内のアイヌ語地名	トカチルッヂを歩く会 代表 山谷圭司氏	座学	上富良野町役場(メイン) 美瑛町役場(オンライン)	3F第1会議室	3F第2会議室
	選択	未定	火	19:00	⑦防災	・防災に関する説明 ・防災とジオパークの関わりについて	上富良野町総務課 危機管理員 横井友幸氏	座学	上富良野町役場(メイン) 美瑛町役場(オンライン)	3F第2会議室	消防庁舎2F 大会議室
ガイド養成講座	必修	12月6日	火	19:00	①ジオパークガイドとは	・ジオガイド基礎講座 ・求められるガイドとは	専門員 中村有吾	座学	美瑛町役場(メイン) 上富良野町役場(オンライン)	3F第1会議室	3F第2会議室
		12月8日	木	19:00	②リスクマネジメント ③ガイドの心得	・ガイドの心得とリスクマネジメント1 ・ガイドツアーがもたらす地域振興1				3F第1会議室	3F第2会議室
専門講座					①②⑤ 火山観測と予知(噴火)	火山物理学、火山噴火、火山観測、火山噴火予知、地震学	附属地震火山研究観測センター 青山 裕氏	座学			
					⑥新規: サスティナブル	地域資源を生かしたまち(地域課題を改善していく)	写真家 中西勲貴氏	座学			



	世界遺産	ユネスコ世界ジオパーク	日本ジオパーク	「単一の地理的領域」とは  OK!  NOT OK?  NOT OK.
目的	保護保全	保護・教育・研究・持続可能な開発		
対象	記念工作物、建造物群、遺跡、自然の地域等で普遍的価値を有するもの（土地・建物）	地質学的重要性を有するサイトや景観が、保護・教育・研究・持続可能な開発が一体となった概念によって管理された、単一の地理的領域		
管理と運営	国の法律や制度で保護	国の法令の下で法的位置づけのある管理運営団体		
数	1154件（日本に25） 文化遺産：897（20） 自然遺産：218（5） 複合遺産：39（2021年7月）	177地域（46カ国） （日本に9） （2022年4月）	46地域 （2022年1月） 	
認定	世界遺産委員会（UNESCO） 1972年～	UNESCO執行委員会 （2015まではGGN） 2004年～	日本ジオパーク委員会 2008年～	
再審査	基本的になし	4年に1回	4年に1回	

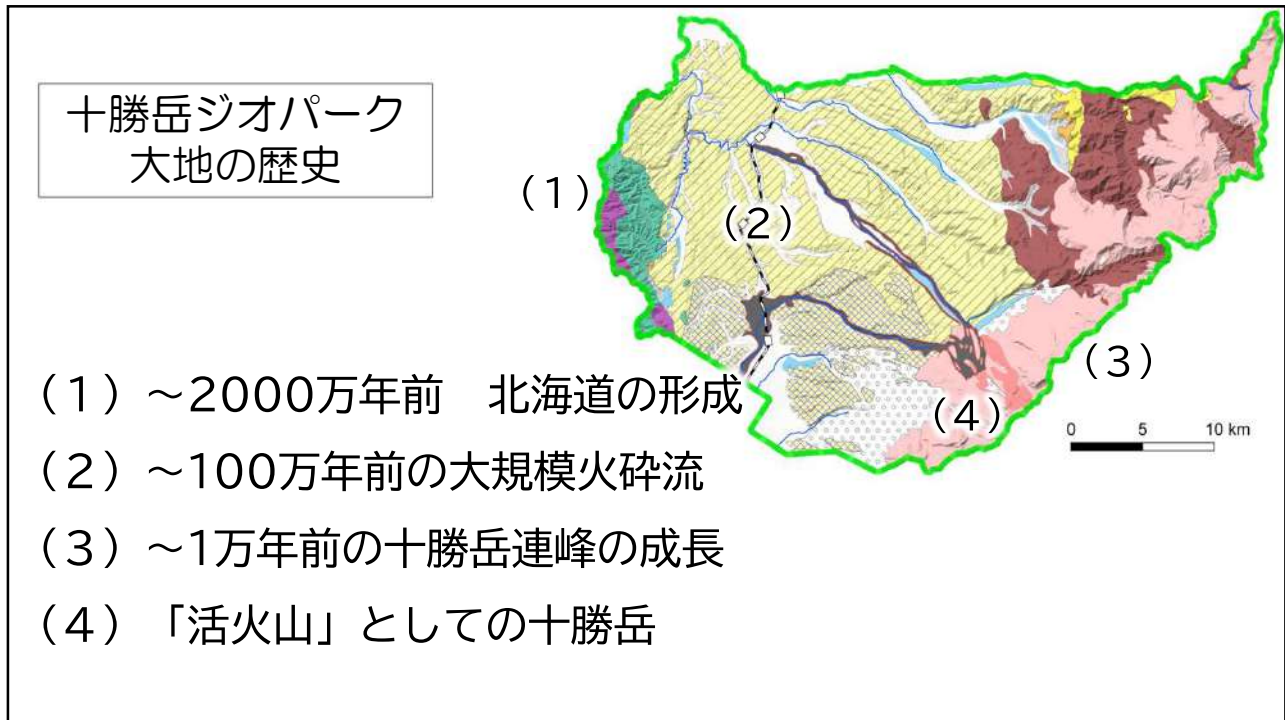
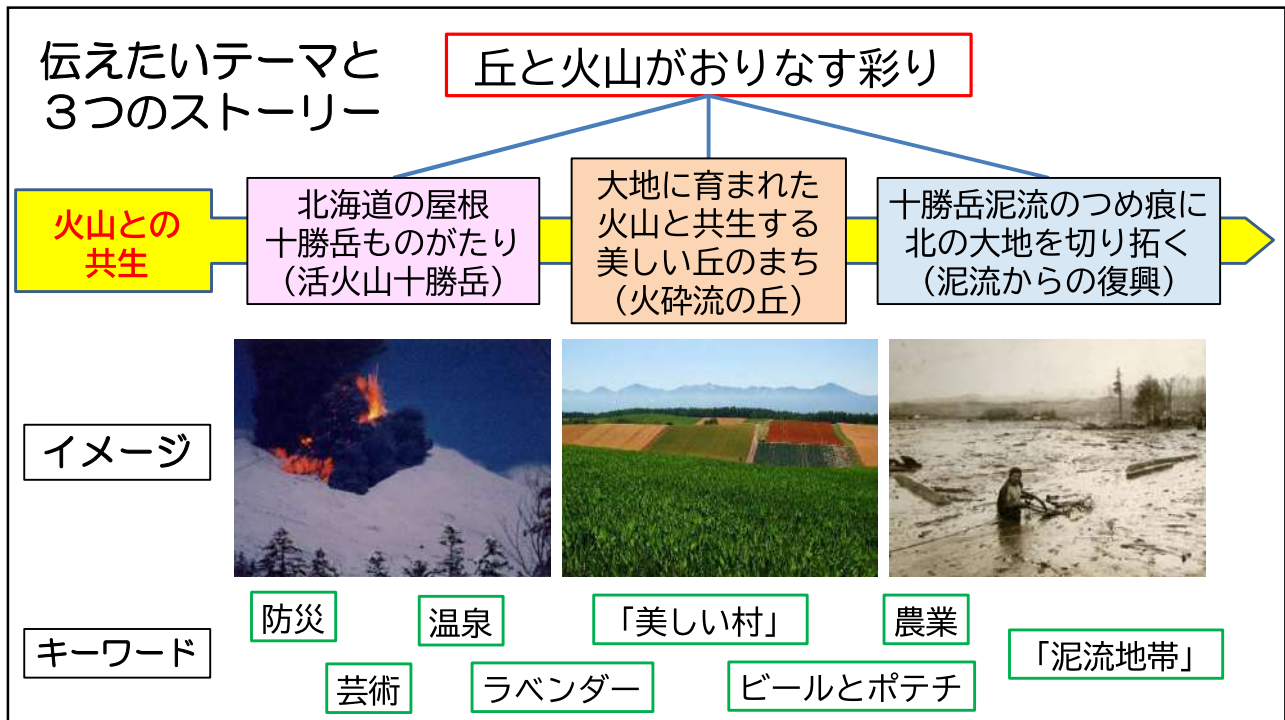


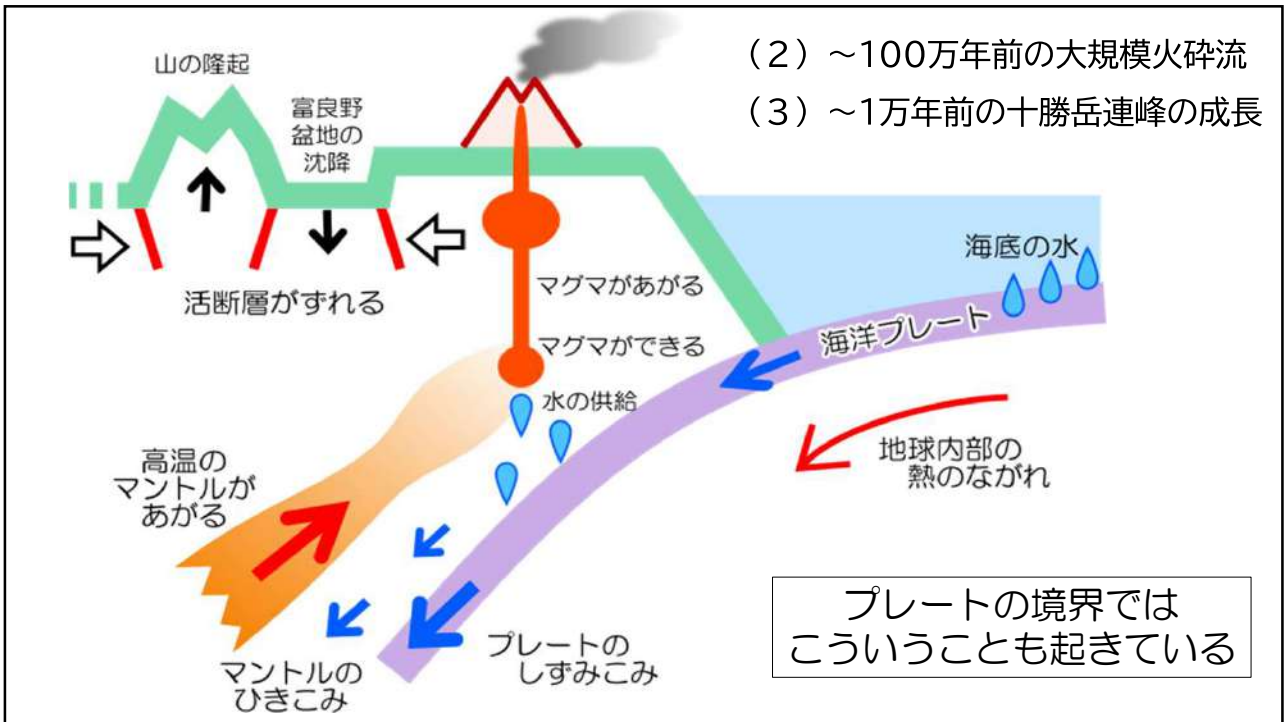
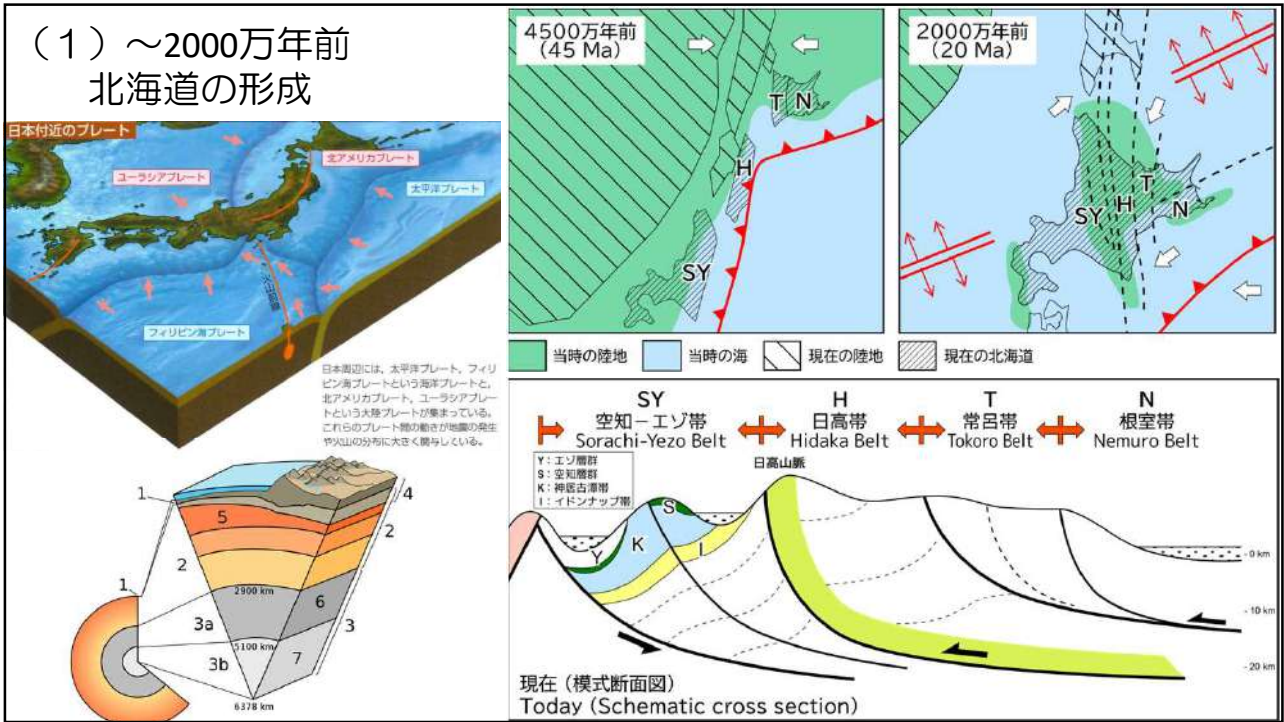


美瑛&上富良野はなぜ「ジオパーク」に取り組むのか

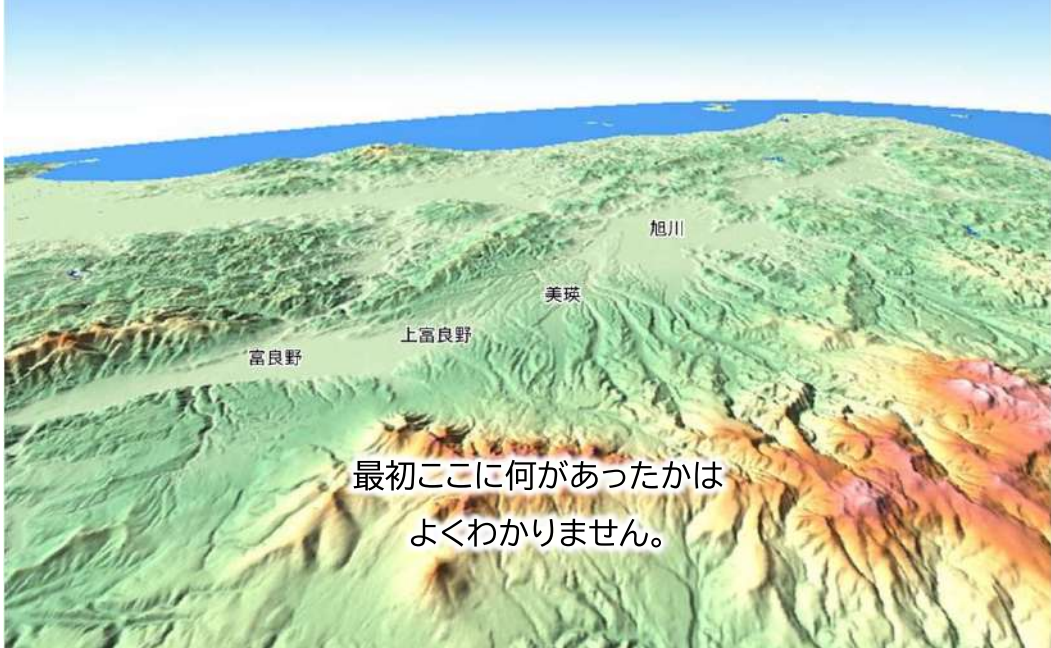
火山と共生するまちづくり

- ・ いつかおきる火山災害、2町で協力して備えたい
- ・ 火山と自然について地域みんなで学びたい
- ・ 恵まれた環境とふるさとの文化を将来に残したい
- ・ 地域を愛してほしい
- ・ 世界の様々な地域と連携・情報交換したい



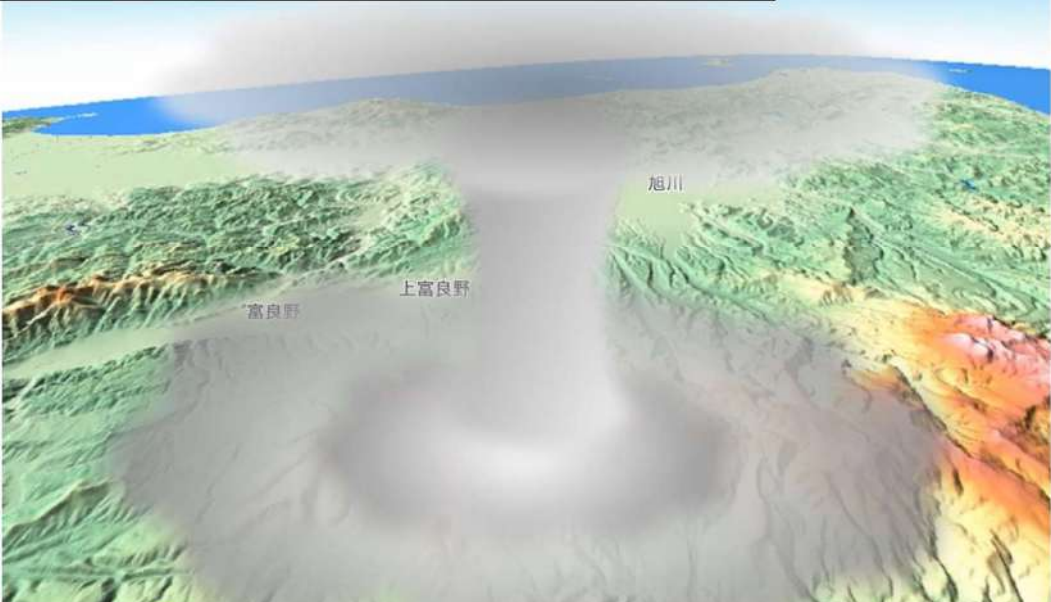


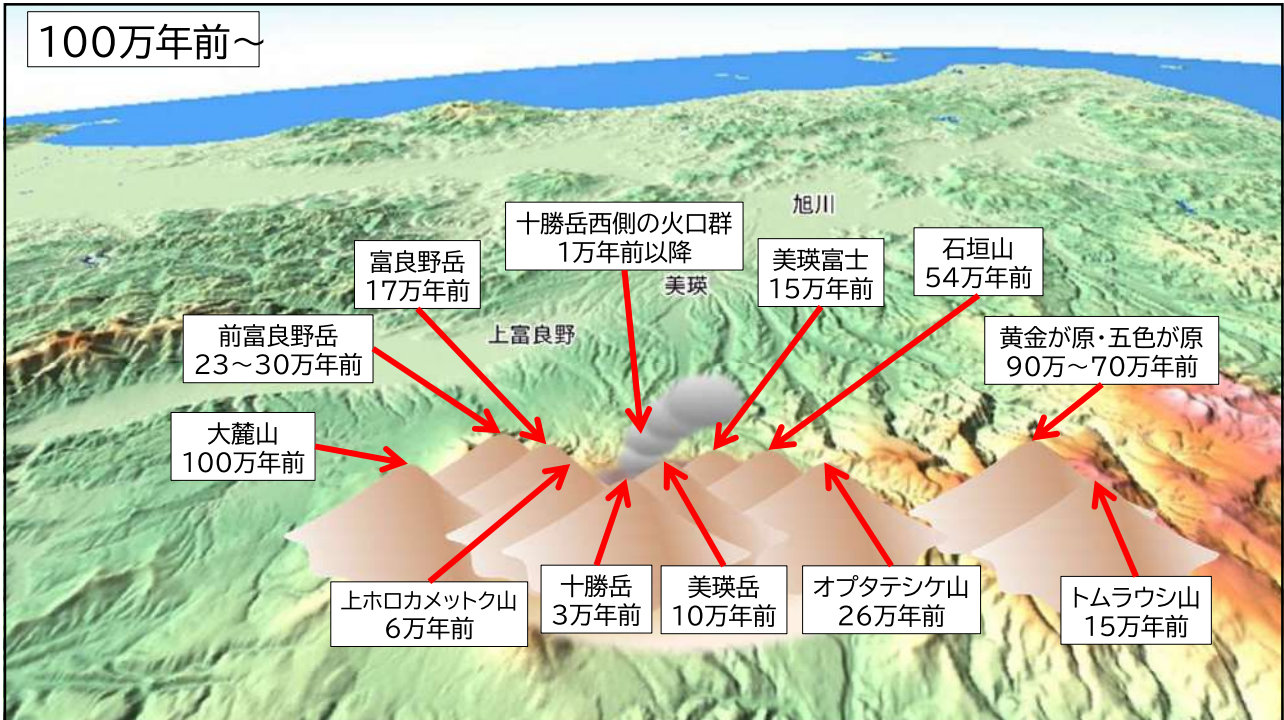
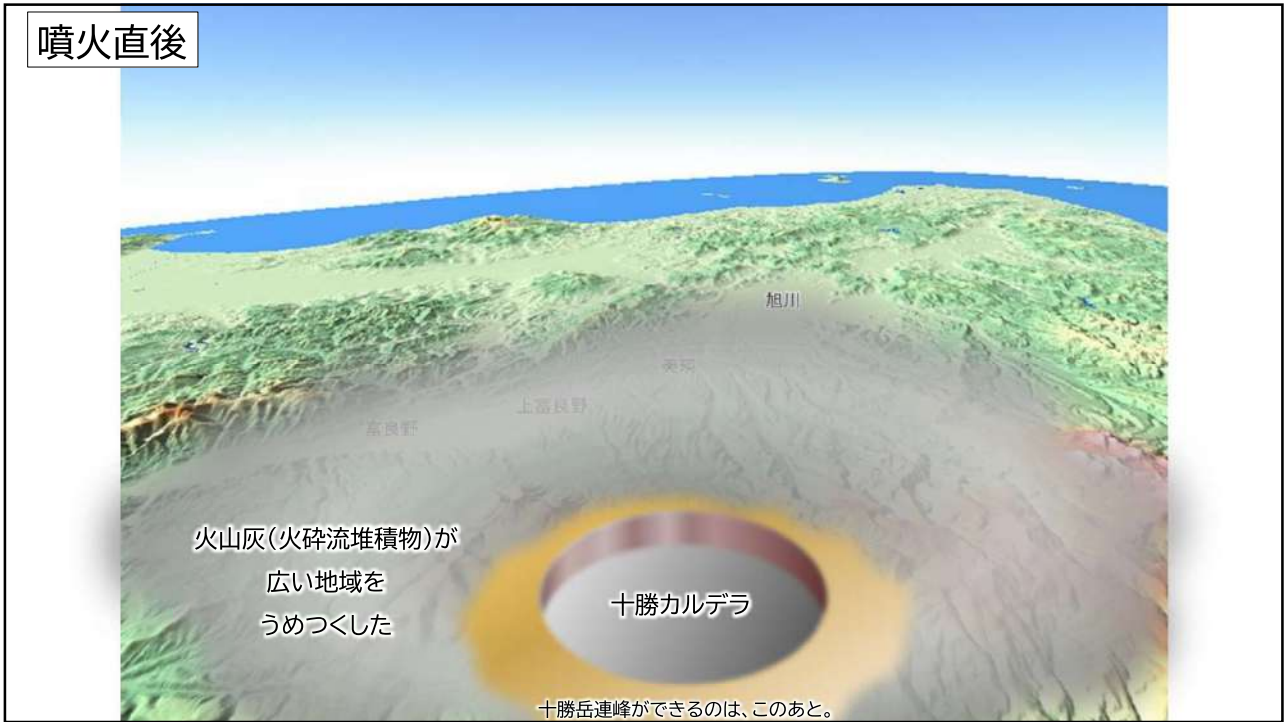
上富良野・美瑛の景観ができるまで



最初ここに何があったかはよくわかりません。

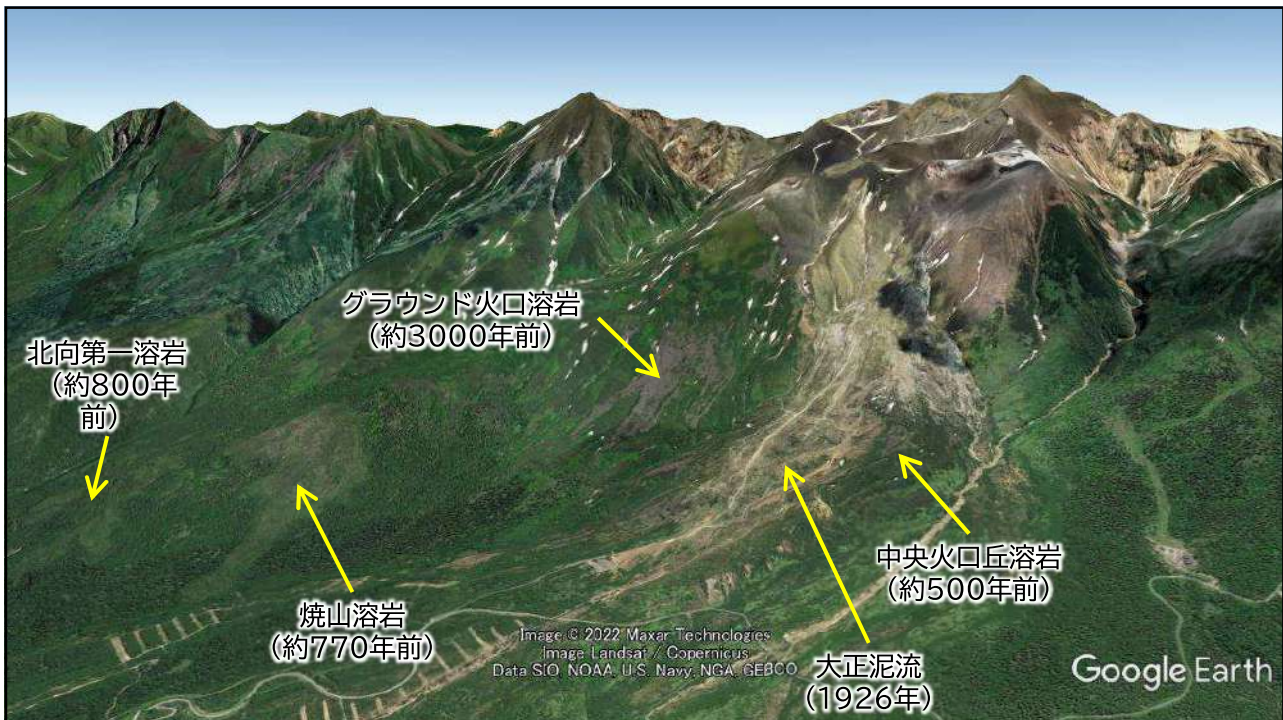
200万および125万年前の大噴火と大規模火砕流
(アニメーション)





(4) 「活火山」としての十勝岳





「十勝岳ジオパーク」の可能性

- ・ 十勝岳と山麓の景観は、世界的に見ても美しい
- ・ この景観は、火山、自然、開拓、農耕がつくった
(人と自然が共生している)
- ・ 十勝岳は、火山を学ぶ上でまたとないフィールド
- ・ 火山防災の分野で、我々は世界のリーダーになれる

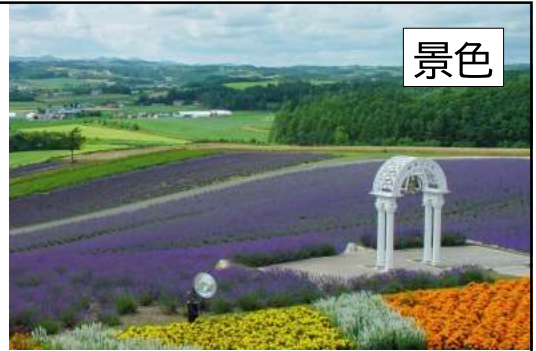
ジオパーク活動で、全国・世界にもっとアピールを！

十勝岳ジオパークの「地域資源」

波状丘陵



景色



農業



美瑛・富良野の「丘」は、125万年前
および200万年前の火砕流堆積物

美瑛軟石は、200万年前の 火砕流堆積物

火山灰や軽石が熱で
固まったのが「軟石」



温泉



おんせん
温泉のできかた



「青い池」は砂防施設の副産物。
青く見えるのは火山物質が浮いているから。



さぼうえんてい びえい
砂防堰堤（美瑛川）

ナキウサギが住めるのは
火山があるから



溶岩・ガレ場がある
→火山のおかげ！

冷たい空気が岩の
すきまをながれる
↓
天然のクーラー



「ジオパーク」になるメリット

- 全国&全世界とつながるネットワーク
- 「ジオパーク」ブランドの使用
- 地域の活性化
- 学校教育・社会教育、防災のとりくみ
- 産・官・学・住民のネットワークづくり

ジオパークになるデメリット

- 4年に一度の再審査はけっこう疲れる。
- お金がかかる

ネットワークの年会費

日本ジオパーク 正会員40万円（準会員20万円）

ユネスコ世界ジオパーク 1500ユーロ（19万円）

会議参加費

ジオパーク維持にかかわる予算、人件費、活動費

ジオを身近に感じるために

- まちの中にあるものはすべて「ジオ」
- 通勤、買い物、散歩のとき、まちの様子を見る
- 地元の産品、食材をつかう
- 「美瑛」「かみふらの」のイメージをこわす
（意外な一面を探す）
- 「よそ者」になった気持ちでまちを見る
（旅人にどう見えるか想像する）

まとめ

- ・ ジオパークは「地域遺産」を守る・学ぶ活動
自然景観、文化、産業
- ・ ジオパークは持続可能な発展を目標にしている
- ・ 町の活動は、すべてジオパークにつながる
- ・ それぞれの立場でできること、得意なことに取り組む
商品開発、防災、教育、仕事、趣味